

東ティモール独立 10 周年記念フェスタ 報告書

【活動の目的】

東ティモール独立 10 周年を記念する会は、東ティモール民主共和国独立 10 周年を記念し、独立までの苦難と人びとの連帶の歴史を思い起こしながら、東ティモールの人びととのつながりを強め、日本においてあまり省みられることのない東ティモールについて紹介することを目的として、東ティモールに関わっている団体・個人が集まり、2011 年 3 月にゆるやかなネットワークとして設立した。構成団体・個人は、(株) オルター・トレード・ジャパン、(特活) アジア太平洋資料センター (PARC)、(特活) シェア=国際保健協力市民の会、(特活) パルシック (PARCIC)、(特活) 東ティモール医療友の会 (AFMET)、(特活) 東ティモール日本文化センター (TNCC)、(特活) ピースワインズ・ジャパン (PWJ)、(特活) APLA、(特活) LoRo SHIP、東ティモール全国協議会、東ティモール独立 10 周年を記念するアイヌモシリ実行委員会、影浦峠、小向定、ステファニー・クープ、関友哉、高橋茂人、當舎小百合、留奥真理子、南風島涉、広田奈津子、義村浩司である。APLA が事務局を担った。

本事業の目的は、東ティモール独立 10 周年を記念し、日本の人びとが東ティモールについて知る機会をつくることである。本活動を通じて独立後の状況や問題について触ることにより、日本の個人や団体が東ティモールの人びとの生活向上にどのように役立てるか、ひいては、私たちの社会をどのように改善・改革していくかを考える場としたい。

東ティモールは数百年にわたるポルトガル支配やアジア太平洋戦争期の連合軍・日本軍による占領、1975 年からのインドネシア軍事占領など幾多の苦難の歴史を乗り越え、国連主導の住民投票で独立への民意を表明し (1999 年 8 月)、21 世紀最初の独立国となった。この間、日本政府は他の西側諸国政府とともに、東ティモールの人びとの独立への希求を無視し、インドネシアの軍事支配を様々な形で支援した。一方、民間の人権団体や連帯運動が東ティモールの人びとの闘いを支援してきた。

2012 年 5 月 20 日、東ティモールは独立 10 周年を迎えた。インドネシアとの密接な政治・経済関係のため、日本ではほとんど知られることのなかった東ティモール問題であったが、住民投票や独立時を中心とした報道などを通じて、日本社会でもある程度認識されるようになった。しかし、その後は、ふたたび日本社会の中では東ティモールのことはほとんど忘れ去られた感がある。

上記の目標を達成するための具体的活動として、東ティモール独立 10 周年記念フェスタの開催を中心とした一連の企画を実施した。また、大学生など若い世代とも協同しながら、東ティモール関連団体以外との協力・協同で活動を進めることにより、私たち自身のエンパワーメントを目指した。

【活動の内容と方法】

□東ティモール独立 10 周年記念フェスタの開催

2012 年 5 月 19 日 (土)・20 日 (日) の両日、青山学院アスタジオを会場として開催し

た。東ティモール独立 10 周年を記念する会と青山学院大学総合文化政策学部の共同主催とし、同学部に会場の提供をはじめ多大な支援をいただいた。

また、在日本東ティモール民主共和国大使館、東ティモール議員連盟、宗教法人力トリック中央協議会からは、後援をしていただいた。さらに、20 団体および多数の個人に協賛していただいた（団体名および個人名は添付の「東ティモール独立 10 周年記念フェスタ in Tokyo」報告を参照）。

当日のプログラムは次の通り。

5月19日（土） 10：00 会場

10:30-10:45 主催者あいさつ、来賓あいさつ
10:45-12:15 『Dalan ba Dame（平和への道 東ティモール独立までのあゆみ）』上映
12:15-12:45 トーク□ 独立への日本・世界の市民による連帶運動を振り返る
12:45-13:30 休憩
13:30-14:00 イジリオ・コエーリョ大使のお話【大使の体調不良のため中止】
14:00-14:15 映画『Balibo』翻訳チームの紹介、バリボ事件について
14:15-16:15 『Balibo』上映
16:15-16:35 休憩
16:35-17:15 トーク□ フォトジャーナリストが語る東ティモール
17:15-17:45 休憩
17:45-18:45 エゴ・レモスさんライブ

5月20日（日） 10：00 会場

10:30-10:40 主催者あいさつ
10:40-11:45 『Women's War（女たちの闘い 東ティモール出産ドキュメンタリー）』背景説明・上映
11:45-12:00 トーク□ 保健・衛生の現状
12:00-13:00 休憩
13:00-14:00 『Rosa's Journey（ローザの旅）』上映
14:00-14:30 トーク□ 独立後の 10 年間を振り返る
14:30-15:00 休憩
15:00-17:00 『カンタ！ティモール』公式リリース、監督舞台挨拶ほか
17:00-17:30 東ティモールの人びとへのメッセージ贈呈、広田監督トーク
17:30-18:00 休憩
18:00-19:00 エゴ・レモスさんライブ

映画上映

日本で上映される機会がほとんどない、東ティモールに関する映画を上映した。上映作品は、『Balibo（バリボ）』『Dalan ba Dame（平和への道 東ティモール独立までのあゆみ）』『Women's War（女たちの闘い 東ティモール出産ドキュメンタリー）』『Rosa's Journey（ローザの旅）』『カンタ！ティモール』の 5 作品。『カンタ！ティモール』以外は外国で製

作された映画のため、日本語字幕を作成した。日本語字幕作成には、青山学院大学総合文化政策学部の宮澤淳一ラボや日本映像翻訳アカデミー、リングア・ギルド、有機農業映画祭関係者などこれまで東ティモールとあまり接する機会のなかつた方々とも協働することができ、東ティモールについてネットワークを広げる機会となった。

上映権利料に関しては、本事業での映画上映が東ティモール独立 10 周年記念行事であること、主催が東ティモール関連市民団体のネットワークであること、営利を目的としていないこと、などの事情を理解していただき、すべての映画に関して上映権利料を無償としていただくことができた。このことは、記念行事実施の上で財政的負担を減少させることに貢献した。このように破格の対応をしていただけたことは、東ティモール支援の世界的なネットワークの強さを示している。

以下、上映映画について紹介する。

『Dalan ba Dame (平和への道 東ティモール独立までのあゆみ)』

様々な苦難を乗り越え、独立へ歩みだした東ティモール。しかし、過去の膨大な人権侵害や政治対立をどのように乗り越えるかが、大きな課題だった。国連暫定統治下の 2002 年に、受容真実和解委員会（CAVR）が設立され、政治家や被害者などから証言を聞いたり、外交文書などを集めて、調査を実施。その報告書は『Chega! (もうたくさん)』として、2005 年にまとめられている。『Dalan ba Dame』は、これらの調査結果を映像により人びとにわかりやすく伝えるために、CAVR が制作したものである。ポルトガル植民地下の様子や第二次世界大戦時の映像など、貴重なフィルムを取り混ぜながら、東ティモール独立までの国内政治・社会状況と当時の国際関係を、記録映像と証言で綴った映画。

＜CAVR 制作／83 分／2005 年／東ティモール／字幕翻訳：若井真木子／字幕協力：リングア・ギルド＞

『Balibo (バリボ)』

1975 年のインドネシアによる東ティモール侵攻の取材中にオーストラリアの TV クルー 5 人が殺害された事件とその真相を追うことに命をかけたひとりのジャーナリストの実話を元にした映画。国際映画祭でも高い評価を得ており、エゴ・レモスが手がけた主題歌は、2009 年の APRA Screen Music Awards で最優秀オリジナル映画曲作曲賞を受賞。

＜監督：ロバート・コノリー／111 分／2009 年／オーストラリア・東ティモール／字幕作成：青山学院大学総合文化政策学部 映像翻訳ラボ（宮澤淳一研究室）／協力：日本映像翻訳アカデミー＞

『Women's War (女たちの闘い 東ティモール出産ドキュメンタリー)』

サンタクルス虐殺事件を世界中に知らせたイギリス人ジャーナリストのマックス・スターが制作した、東ティモールの出産をテーマとしたドキュメンタリー。安全な出産を促すための啓発を目的に制作された。現在アジアで最も出生率が高い東ティモール。しかし、妊娠や出産の際に命を落とす母子も少なくない。多くの人びとが家族や産婆の助けを借りて自宅で出産する。東ティモールの女性にとって、出産は今でも命をかけた闘いだ。

＜監督：マックス・スター／48 分／2007 年／東ティモール／日本語字幕制作：山田勝

巳、堀純司>

『Rosa's Journey（ローザの旅）』

独立のために闘った女性ローザ・マルディンスを主人公に、独立後の東ティモールの様子を描いた映画。2006年に発生した騒乱では、ローザを含め、何千人の市民が避難を余儀なくされた。ローザは、東ティモールの平和への希望を持ち続け、紛争と貧困によって奪われた教育の機会を子どもたちに与えるために闘う。

<フィルム・オーストラリア制作／52分／2008年／オーストラリア／日本語字幕制作：渡辺一孝>

『カンタ！ティモール』

日本が深く関わりながら、ほとんど報道されなかつた東ティモールの闘いをとりあげた国内初の長編。自主映画ながらも感動は国境を越え、5カ国100カ所以上の試写会で会場が心を振るわせた、愛すべきエチュード。本イベントにて、公式リリースとなった。

<監督：広田奈津子／110分／2012年／東ティモール・日本>

上映作品はその後、貸し出しをおこなつており、各地で上映ができるようにしている。

トーク

映画上映の前後に、映画に関連したテーマでトークセッションを開いた。

トーク① 独立への日本・世界の市民による連帯運動を振り返る

日本や世界各国における東ティモールへの連帯運動について、3名の方に語っていただいた。

古沢希代子氏（東ティモール全国協議会）には、世界の市民と議員による連帯運動の活動について、また、アジア太平洋戦争中の「慰安婦」問題やインドネシア占領期をはじめとする過去の人権侵害への取り組みについて話していただいた。

Sr. 中村葉子氏（聖心侍女修道会）のビデオメッセージでは、日本のカトリック教会と市民運動について、さらに、「外国支配による愚民化や分断化の傷跡が深く、人びとが力を發揮できない」という状況など、現在東ティモールで暮らしている中で感じることを伝えていただいた。

吉岡志朗氏（東ティモール日本文化センター）は、1996年のノーベル平和賞に向けた取り組みや、独立後の言語・教育問題、経済・雇用問題などについてお話をいただいた。そして、「日本人として東ティモールから何を学ぶのか」、どのような支援・関わりができるのか、考える機会にしていただきたいと訴えられた。

トーク② フォトジャーナリストが語る東ティモール

南風島涉（報道写真記者）

南風島氏が1993年から現地で取材を続けながら見つめた東ティモールの人びとの闘いについて、本人が撮影した写真を映写しながら話をしていただいた。東ティモール問題をほとんど伝えなかつたマスメディアとそれを支えるシステムについても触れられ、東ティモールの現状について語られた。

ールの経験を現在も続く世界の紛争や様々な社会問題の解決にどういかせるのか、との重要な問題提起があった。

トーク□保健・衛生の現状

吉森悠（シェア=国際保健協力市民の会 東ティモール事業担当）

『Women's War（女たちの闘い 東ティモール出産ドキュメンタリー）』をより良く理解できるように、上映に先立って東ティモールの保健状況について概要を説明していただいた。また、上映後は、独立後10年間の保健指標や保健政策、人材や施設など保健医療の変化やその課題について、農村での保健医療活動や暮らしを通して見聞きしたことを織り交ぜて話をしていただいた。

トーク□独立後の10年間を振り返る

伊藤淳子（PARCIC）

初めて東ティモールに赴任した2001年からの10年間の変化を語っていただいた。独立前後の当時は、街が廃墟のままでも人びとは希望を持って生き生きしていたが、10年が過ぎて独立闘争を知らない若い世代が人口の半数以上を占めるようになり、世代間ギャップが生じ始めている。PARCICが活動している農村レベルでも、国レベルでも経済的自立や政策面での困難な課題に直面している。東ティモールの現在は、市民によるオルタナティブを確立してこれなかった私たち自身の課題でもあることを、現地に根ざす日本人の目で語っていただいた。

コンサート

環境問題や人権問題、和解など社会性の強いメッセージを込めた曲を歌う東ティモール人歌手Ego Lemos氏を招いてコンサートをおこなった。Lemos氏は映画『Balibo』の主題歌を歌っており、同作品でオーストラリアの映画主題歌賞を受賞している。東ティモールの伝統的な曲やLemos氏のオリジナル曲などをギターの弾き語りで演奏し、素晴らしい演奏を聴かせてくれた。また、東ティモールに関わりのある日本人ミュージシャンが日本全国から参加していただき、豪華な顔ぶれとなった。最後は会場中の人が大きな輪になって手をつなぎ、東ティモールの伝統的な踊り、テベテベを踊った。とても印象深いコンサートとなった。参加者の方々は、映画と同様、普段日本で触れる機会の少ない東ティモールの音楽、それも生での演奏を通じて、その力強さややさしさに包まれながら会場を後にした。

資料展示・物品販売

記念する会構成団体がブースを設置し、それぞれが関わりのあるテーマ・地域の資料や产品が並んだ。フェアトレード有機コーヒーや普段なかなか手に入らない民芸品、関連書籍、10周年を記念して製作したTシャツなど、豊富な品揃えで来場者を迎えた。2日間にわたって素晴らしいコンサートを聴かせてくれたエゴさんのCDは完売となった。資料を手に取る来場者の方とブースの担当者が真剣に話し込む場面もたびたび見られ、ホール内の企画をさらに掘り下げる場となった。

写真展

女たちの戦争と平和資料館（WAM）の「東ティモール・戦争を生きぬいた女たち：日本軍とインドネシア支配の下で」パネル展示や直井保彦氏（写真家）・南風島渉氏（フォトジャーナリスト）の写真パネルを展示した。来場者の方に、一般的に取り上げられる機会の少ない東ティモールの女性たちの闘いについて知っていただく貴重な機会となった。

また、別会場のJICA 地球ひろばでは、5月の月間国別特集として「東ティモール」が取り上げられており、記念する会は各団体の活動を紹介したパネルを制作・展示した。また、JICA 地球ひろばの協賛、草の根援助運動の協力の下、写真展「わたしが出会った東ティモール」（5月1日～13日）を実施した。

パネル製作・展示は数が限られていたため、インターネット上で「東ティモール写真館」を設置した。関係者が撮影した写真に、各自の想いがこもった、また、各自が体験した東ティモールを見ることができる。

<http://www.flickr.com/photos/easttimorphotos/sets/72157629937529553/>

□独立10周年記念ポータルサイトの開設

独立10周年を記念して、本事業以外にも様々な企画が日本国内で計画された。本事業をはじめ、それら東ティモール独立10周年記念関連の活動予定を包括的に知ることができるようインターネット上にポータルサイトを立ち上げ、情報の提供・宣伝に努めた。サイトの構成は以下のとおり。

<http://tl10thjp.info/>

主催・共催イベント

呼びかけメンバーによるイベント、地域別案内

参加の呼びかけ、呼びかけメンバーについて、協賛・寄付の案内

協賛者、記念メッセージ

東ティモールについての基礎情報、歴史、資料

写真館

記念メッセージには、イギリオ駐日東ティモール大使、紺野美沙子（国連開発計画（UNDP）親善大使）からメッセージを頂いた。

□各構成団体の独立10周年記念関連活動

・エゴ・レモス コンサート

北海道では、釧路（5月8日）、阿寒湖（9日）、札幌（11日）でコンサートを行い、阿寒湖と札幌ではアイヌアートプロジェクトと共に演じた。釧路では50人、阿寒湖が30人、札幌は130人の来場者があった。そのほか、福岡、長野などの各地でコンサートを行い、同時に『カンタ！ティモール』の上映も行った。また、宮城県石巻や千葉県成田などを訪問し、視察・交流する機会を設けた。

・JICA 地球ひろば主催連続セミナー

「フェアトレードコーヒーが築く人びとの新しい関係と「Health for All 住民主体の健康づくりを目指して」に協力し、フェアトレードコーヒーにはパルシック、ピースウィンズ・ジャパン、オルター・トレード・ジャパンが、保健医療には東ティモール医療友の会、シェア=国際保健協力市民の会から講師を派遣した。

・アースデイ・世界フェアトレードデー

アースデイ（4月21・22日、代々木公園）や世界フェアトレード・デー（5月12日、広尾JICA地球ひろば）への参加を通じて、東ティモール独立10周年の認知度を高めるとともに、ポスターやチラシの配布によって東ティモール独立10周年記念フェスタの宣伝・紹介をおこなった。当初、記念する会としての参加を計画していたが、予算・人員などの制限から、構成団体がそれぞれ参加するなかで、記念フェスタの宣伝をおこなった。

・札幌 東ティモール学習会

第1回「東ティモール独立への動きと日本社会」竹村泰子（3月15日）

講師の竹村泰子氏は、東ティモールの独立支援を熱心にしていた元参議院議員です。東ティモール独立への動きと日本社会について話していただいた。

第2回「東ティモールへの人道的介入・国連の暫定統治とはなんだったのか」越田清和（4月5日）

1999年8月の住民投票、多国籍軍の展開、国連による暫定行政という流れを振り返り、東ティモール独立について話していただいた。

第3回「東ティモールのフェアトレード・コーヒー」八木田道敏・東由佳子（4月26日）

東ティモールの基礎知識とフェアトレードの仕組みについて、札幌のフェアトレードショップについて話していただいた。

・Let's enjoy! 東ティモールの音楽—ティモ・ロロサエがテトゥン語で歌う—

5月12日、JICA地球ひろばで開催。東ティモール大使館主催、東ティモール日本文化センター(TNCC)が協力した。

東ティモールの言葉、テトゥン語で歌を歌う「ティモ・ロロサエ」のメンバーを迎えてのミニコンサートを開催した。自然や愛を歌った南国風のものから、独立・自由への願いなどを歌った独立闘争の歌までさまざまな曲を披露した。

・シンポジウム「東ティモールからの希望の風—人びとによる復興の道のりをふりかえる」

5月19日、東京ウィメンズプラザホール。アジア太平洋資料センター(PARC) /パルシックが主催した。

独立後の東ティモールに訪れた変化、そして今後の課題などに焦点を当て、主権回復後の東ティモールが歩んだ10年間とは何だったのか、長くにわたり現場で活動してきた方々を交えて議論した。

・連続講座「東ティモールの独立が私たちに問いかけるもの」

現場に通い続けてきたジャーナリストや NGO の方々をお呼びして、各地域が直面している問題の基本的な構造や現状について話していただき、東ティモールとの「つながり」をクロストークで考える 2 段構成で予定している。各地域の問題について学びつつ、私たち自身の問題としてどう捉えるかを考えていきたい。

第1回 東ティモール（7月13日）、第2回 ビルマ（8月3日）、第3回 パレスチナ（9月28日）、第4回 インドネシア（10月26日）、第5回 ナガランド（11月30日）

【実施経過】

2011年3月7日に最初の会合を開き、東ティモール独立10周年を記念する事業の実施を決めた。それ以降の実施経過を以下に記す。

[2011年]

3月7日	初回打ち合わせ(以降、1ヶ月に1回程度で打ち合わせのために集まる)
5月	エゴ・レモス氏へのコンサート来日依頼
5月～8月	上映予定映画の選定
8月	在日本東ティモール大使との面会（企画説明・後援依頼）
8月～	上映権交渉・手配（DVDとスクリプト入手の手配）
10月	記念する会ブログ開設

[2012年]

3月	ポータルサイト開設
3月	ちらし・ポスター作製・広報
3月～5月初	上映映画翻訳・字幕作製
3月	写真展「私が出会った東ティモール」写真募集・集約・確定
4月	写真展「私が出会った東ティモール」パネル・キャプション作成
4月18日	「フェアトレードコーヒーが築く人びとの新しい関係」セミナー
4月21・22日	アースデイ参加
4月25日	「Health for All 住民主体の健康づくりを目指して」セミナー
5月1日～13日	写真展「わたしが出会った東ティモール」(JICA 地球ひろば)
5月1日～27日	企画展示「各団体の活動紹介」(JICA 地球ひろば)
5月3日～24日	エゴ・レモス氏来日（北海道、福岡、長野などでコンサート）
5月12日	世界フェアトレードデー参加
5月12日	Let's enjoy! 東ティモールの音楽—ティモ・ロロサエがテトゥン語で歌う—
5月18日	シンポジウム「東ティモールからの希望の風—人びとによる復興の道のりをふりかえる—」
5月19日・20日	東ティモール独立10周年記念フェスタ開催
6月	報告書作成と送付・Web上で公開
6月～	上映映画貸し出し
7月13日～	連続講座「東ティモールの独立が私たちに問いかけるもの」

【成果】

本事業の目的である、東ティモール独立 10 周年を記念し、日本人びとが東ティモールについて知る機会をつくることについて、計画通りほぼ達成できたと考えている。

短期的な成果として、日本国内において、マスメディアなどでほとんど報道される機会がない東ティモールについて、映画やトーク、音楽、展示、フェアトレード商品などを通じて広く知ってもらうことができた。独立後の東ティモールの現状や問題点・困難さについて、さらに、アジア太平洋戦争期やインドネシア占領期における日本との関係についての知識などを深めることができた。今後の日本・東ティモール間の平和的関係の構築や相互交流・支援を深めていく契機となった。

記念する会の各構成団体・個人はこれまで様々な形で東ティモールに関わっており、今後も中・長期にわたって活動を継続する意向である。本活動を通じて、東ティモールに关心のある個人、団体のネットワークが強化され、その協力によって個々の事業がより効果的に実施されるとの長期的な展望・展開につなげることができた。

社会的な波及効果としては、記念フェスタでは 2 日間で合計約 250 人の方に来場していただいた。そのほか、運営側として、記念する会やボランティア（各団体や個人申し込み）がのべ約 50 人参加した。ポータルサイトには、9 月 24 日現在、約 1800 回の閲覧があり、インターネット写真館も約 1000 回閲覧されている。

各種雑誌でも東ティモール独立 10 周年が取り上げられた。『インパクション』（「東ティモール：「独立」からの 10 年」、第 184 号）『オルタ』（「東ティモールからの希望の風 独立 10 年間の国づくりを振り返る」、434 号）『ハリーナ』（「東ティモール独立から 10 年 社会正義のためにたたかいつづける」、16 号）などで特集が組まれ、記念する会関係者などが寄稿した。特に『インパクション』では、本事業の取り組みについての紹介をおこなった（野川未央「わたしたちと東ティモール 「東ティモール独立 10 周年記念イベント」開催に向けて」）。

東ティモール社会に対しては、本記念行事についてマスメディアでの扱いはなかったものの、既存のネットワークなどを通じて本事業についての紹介があり、独立後も続いている日本での支援状況などについて広く知ってもらう機会となり、相互理解を深めることができた。

5 月の記念事業終了後も、映画の貸し出しや 10 周年記念関連の企画が続いている。一過性の催しものだけで終わらないように、連続講座「東ティモールの独立が私たちに問いかけるもの」を 1 ヶ月に 1 回（8 月は休み）の割合で開催し、東ティモールとアジアのその他問題をつなげて考える試みをおこなっている。

各団体・個人が、できることをできる範囲で実施するという、ゆるやかなネットワークを保ち、各自の自発性に多くを負ったことが、本事業の成功の大きな要因であると考える。また、運営・準備にあたっては、新しく東ティモールに関わった人や若い人たちが臆することなく十分に各自の力を発揮できるような環境づくり、民主的な進め方を心がけた。

【今後の課題】

当初計画していた、東ティモール料理の提供は、人手や余力の面から断念した。東ティモール料理は旧宗主国であるポルトガルの料理の影響が大きいことから、日本在住のブラ

ジル人やポルトガル人コミュニティとの協力・連携を計る良い機会になったはずだが、今回見送らざるを得なかった。

東ティモールでは、今年、独立記念日をまたがって大統領選挙と議会選挙が行われた。両選挙とも概ね平和裏におこなわれたことから、本年末までに国連ミッションが撤退する予定であり、独立国としての新しい段階への一歩を踏み出すことになる。しかし、国家財政の9割以上を石油・ガス収入に依存していることや国家予算の急速な拡大（その大部分はインフラ整備や各種一時金などのばらまき）、借款の供与開始、経済格差の深まり、政治家・官僚の汚職、軍事化、インドネシア占領期に犯された人道に対する罪の容疑者に対する不処罰をはじめとする脆弱な司法など、数多くの経済・政治・社会問題に直面している。

一方、日本では昨年の3・11 東北大震災と原発事故以降、戦後日本社会のあり方を見直す動きが大きくなっているが、民主党政権をはじめ政治家は権力闘争に明け暮れ、山積する課題に対処する意志も能力もない。政権は財界と官僚のいいなりとなり、脱原発や沖縄に顕著な基地問題など、平和な暮らしを求める人びとの声を無視する政治状況が続いている。東ティモールと日本が直面する課題は、もちろん、それぞれの国に固有のものだが、主権者は誰なのか、私たちはどのような社会を目指すのか、そのためにはどのような政治システムが必要なのかなど、深部では共通した課題を抱えていると考えている。その意味で、東ティモールへの関心・関わりは、東ティモールの人びとのためだけでなく、足元の日本への関心・関わりと表裏一体の関係にある。

独立10周年を記念する本事業が一過性の「お祭り」に終わることなく、本活動を通じて触れることのできた独立後の状況や問題について、日本の個人や団体が東ティモールの人びとの生活向上にどのように役立てるか、ひいては、私たちの社会をどのように改善・改革していくかを考える活動を続ける必要がある。

【添付書類】

「東ティモール独立10周年記念フェスタ in Tokyo」プログラム

「東ティモール独立10周年記念フェスタ in Tokyo」報告